

2020 年度年報発行にあたって

公益財団法人泉屋博古館の 2020 年度年報をお届けいたします。

泉屋博古館は、住友家が収集した美術品の寄贈を受け、昭和 35 年（1960）に財団法人として設立、現在京都東山の麓、鹿ヶ谷の本館と、東京六本木の住友家旧麻布別邸跡地庭園を臨む分館におきまして、保存、調査研究、公開の各事業を行っております。

新型コロナウイルス感染症拡大は、経済・社会全般に広汎な影響を与え、私たちが担う文化活動、社会活動のあり方にも大きな影響を与えております。コロナ禍のもとで、人々が憩いや教養の場を求め美術館を訪れ、美術品に直接触れるという当たり前の日常が難しくなり、一方、入場料収入減少や美術品移動停止などにより美術館運営面での厳しさも増しています。私たちは、このような困難な局面において、美術を通して人間の精神生活を支える重要な役割を果たす施設として、社会への貢献をどのように深めるべきか考究し、その具現を図っております。

2020 年、泉屋博古館は法人設立 60 周年を迎え、京都本館では、これを記念する特別展を企画、開催いたしました。その第一弾「モネからはじまる住友洋画物語」は、感染症拡大により 4 月から約 2 か月間休止しましたが、6 月から消毒の徹底、検温、ソーシャルディスタンスの確保、入場制限など感染症拡大防止に努め再開しました。再開に際しまして、お客様より感染防止策にご協力賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。なお、特別展一件は一年延期を余儀なくされ、また関連イベントの一部は残念ながら開催を断念しました。

また、コロナ禍においてもできる限り美術品と接する機会を提供すべく、休館中はインターネットやマスコミを通して、美術品の学芸員解説など、情報提供と発信に注力しました。さらに展覧会再開後は、規模の縮小を含めた安全対策を徹底し、ワークショップや講演会の実地開催を図りました。

泉屋博古館分館は現在増改築工事のために休館しておりますが、工事にあたっては関係者による徹底した感染症拡大防止策を講じ、計画通り進捗しております。2022 年春には、「泉屋博古館 東京」として名称も新たにニューアルオープンいたします。

2020 年度は当館におきましても、入館料他の収入の減少と対策費などの経費の増加による財政状況の悪化が見られましたが、住友グループ各社からの協賛金および当館活動趣旨にご賛同いただいている皆様からのご寄付により、安定した運営を継続することができました。改めまして厚く御礼申し上げます。今後も住友グループの文化・社会貢献活動の一翼を担う存在として、多様な美術館活動を展開してまいりたく、引き続きのご支援、ご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 泉屋博古館
理事長 奥 正 之



公開事業の概要

本館（京都）

展覧会名	期間	入館者数			
		有料	優待	計	1日平均
開館60周年記念名品展Ⅰ モネからはじまる 住友洋画物語	3/14～4/8 6/2～7/12 (58日間) ^{*1}	3,684	2,675	6,359	110
特別展 ゆかた 浴衣 YUKATA すずしさのデザイン、いまむかし	延期 ^{*2}				
開館60周年記念特別展 瑞獣伝来 —空想動物でめぐる東アジア三千年の旅—	9/12～10/18 (32日間)	3,896	5,400	9,296	291
開館60周年記念名品展Ⅱ 泉屋博古#住友コレクションの原点	10/30～12/6 (33日間)	2,784	3,041	5,825	177
青銅器館 中国青銅器の時代 (企画展開催期間外入館者)	企画展期間外 4日間	27	0	27	7
2020年度入館者計	127日間	48% 10,391	52% 11,116	対前年比-9,491 21,507	169

*1 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発出により4/9～6/1休館した。

*2 新型コロナウイルス感染症拡大により作品借用が困難となったため開催を翌年に延期した。



分館（東京）

増改築工事により通年閉館した。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う展覧会の変更と対策

・特別展「ゆかた 浴衣 YUKATA」の開催延期

4月7日に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発出を受け、当館では開催中の「モネからはじまる住友洋画物語」展を4月9日より休館した。

さらに緊急事態宣言が5月中旬まで延長されたことにより、6月6日から7月12日に開催を予定していた特別展「ゆかた 浴衣 YUKATA」は、出品作品の借用が困難になり、開催を2021年に延期した。

そのため、緊急事態宣言解除後の6月2日より、途中休館した「モネからはじまる住友洋画物語」展を再開し、7月12日まで継続開催した。



・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、2020年度開催の展覧会について、以下の対策を実施した。

【入館者制限】

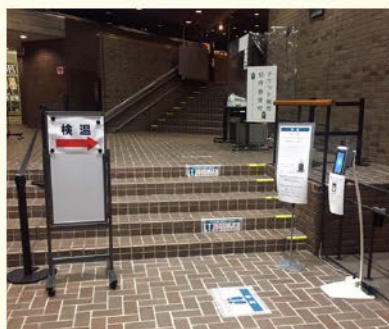
・企画展示室内の観覧者を最大40名までとし、団体入館をお断りした。

【入館者対応】

- ・玄関前にて、来館者に対し検温、連絡先記入、アルコール消毒をお願いした。
- ・入館受付とミュージアムグッズ販売を分けることにより、入出場の導線を分離した。
- さらに秋季展より正面玄関に自動検温器を設置した。

【館内対応】

- ・監視ボランティアによる展示ケース手すりのアルコール消毒を実施した。
- ・来館者用ロッカー、休憩用椅子、階段手すり、トイレ等館内設備については清掃担当者にてアルコール消毒を午前午後一回ずつ実施。
- ・給茶機の一時停止（規制緩和後再開）。
- ・貸出品（鉛筆）は清潔と使用済みに箱を分け、アルコール消毒を徹底した。
- ・青銅器解説ボランティアを休止した。



2020 年度公開事業 本館（京都）

中国青銅器の時代

会期：企画展覧会と同時開催

当館を代表する中国商周時代の青銅器を、名品、概説、文様・金文、日本を含むそれ以降の時代への展開、の4テーマで紹介した。

【第1展示室】

青銅器名品選—いにしへの造形美—

当館収蔵青銅器のなかから選りすぐりの名品を展示し、その魅力を伝えるイントロダクションとする。

【第2展示室】

青銅器の種類—豪華な道具たち—

多種多様な青銅器について、楽器・酒器・食器・水器・武器と用途ごとに紹介する展示。

【第3展示室】 特集展示

青銅器の文様—神秘のデザイン—

金文—中国古代の文字—

（3月14日～4月8日、6月2日～7月12日、

9月12日～10月18日、10月30日～12月6日）

前半部分は青銅器の文様、後半部分は金文に焦点を当て、鑄造実験による研究成果も交えながら紹介する展示。

【第4展示室】

青銅文化の展開

漢代から清代にいたる金属工芸の流れを展示。

銅鏡から銅花器、文房具類までを紹介。



第2展示室



第3展示室（文様展示）



第3展示室（金文展示）

関連催事

・ギャラリートーク（本館学芸員）

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面形式のギャラリートークは今年度は中止した。

なお「泉屋博古」展の関連催事として、講堂にてレクチャー形式のスライドトークを行った。

「住友コレクションの中国青銅器—蒐集と鑑賞—」

11月19日（25名）



開館 60 周年記念名品展 I モネからはじまる住友洋画物語

会期：3月14日～4月8日／6月2日～7月12日

分館が所蔵する洋画の名品を収集者の嗜好やエピソードとともに、一堂に展示した。住友家 15 代当主住友春翠は、明治から大正にかけて他に先駆けて西洋や日本の洋画を収集、それらを須磨別邸に飾り、時に画家や近隣の児童にまで公開するなど、洋画振興にも寄与した。モネやローランスなど日本の洋画界に深く影響を受けた欧州の画家、そして浅井忠をはじめとする関西美術院の画家、特に住友家が留学支援をした鹿子木孟郎の代表作と住友コレクションに果たした役割に焦点をあてた。

また、春翠の子息、住友寛一が岸田劉生との親交を通じ譲り受けた大正期の優品群、そして 16 代当主友成が昭和期に収集した理知的な二十世紀絵画にもはじめて焦点をあてた。

(主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社、京都新聞)



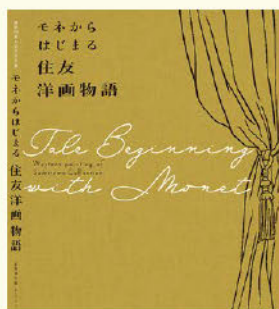
展示風景



展示風景



展示風景



展覧会に併せて、図録『モネからはじまる住友洋画物語』1,000 部を刊行した。

洋間に飾る感覚を体験いただく趣向としてモネの額のシールを特典として添付。

関連催事

・オンライン ギャラリートーク 「野地分館長のゆるやかトーク」

新型コロナ感染症拡大防止のため会場での催しがすべて中止となったことを受け、野地分館長によるギャラリートークを収録、休憩室にて常時上映を行った（4月8日まで）。臨時休館後は、数分ずつ5回に分け公式Facebookで4月13日より、15回に分けて公式Twitterで5月5日より配信した。

・日経アートアカデミア オンライン講演会

ギャラリートーク形式で展覧会を紹介するコンテンツを配信。受講と図録購入をセットとする試みも行った（8月7日開始）。



オンライン ギャラリートーク



日経アートアカデミア オンライン講演会

新型コロナ感染症拡大に伴う緊急事態宣言発出により、4月9日～5月17日の期間休館し、緊急事態宣言解除後の6月2日から、会期を7月12日まで延長し再開した。また、新型コロナ感染症拡大防止のため、以下に予定していたすべてのイベントを中止した。

I. 【記念講演会】「住友洋画コレクションの特色」於：泉屋博古館講堂

4月25日（土） 山野英嗣氏（和歌山県立近代美術館長）

II. 【詳しすぎるギャラリー・トーク】 於：企画展示室

① 4月11日（土）

「鍋井克之と国枝金三」中谷至宏氏（京都市美術館担当係長学芸員）

「モネの《モンソー公園》をめぐる」野地耕一郎（泉屋博古館分館長）

② 4月18日（土）

「浅井忠と京都の洋画界」梶岡秀一氏（京都国立近代美術館主任研究員）

「鹿子木孟郎の《ノルマンディーの浜》をめぐる」高階絵里加氏（京都大学人文科学研究所教授）

③ 4月26日（日）

「岸田劉生の《二人麗子像》を読む」山田諭氏（京都市美術館学芸員）

「斎藤豊作の《秋の色》を読む」野地耕一郎

III. 【午後のゆるやかトーク】3月14日（土） 野地耕一郎 於：企画展示室

開館 60 周年記念特別展 瑞獣伝来 ―空想動物でめぐる東アジア三千年の旅―
会期：9 月 12 日 - 10 月 18 日

日本文化のなかにも深く根付いている中国発祥の瑞獣のうち、龍・虎・鳳凰に焦点を当て、その多彩な展開を古代中国から近代日本まで、東アジア文化史の視点より紹介する展示。

(主催：公益財団法人泉屋博古館、毎日新聞社、京都新聞)



展示風景



展示風景



展示風景

展覧会開催に併せて、図録『瑞獣伝来―空想動物でめぐる東アジア三千年の旅』1,300 部を刊行した。



関連催事

・クロストーク

「瑞獣ってなに？動物学者と考古学者の対話」

9月21日（40名）会場：当館講堂

坂本英房氏（京都市動物園園長）

・山本亮（当館学芸員）

中国古代に起源する瑞獣について、京都市動物園園長を招き、動物学と考古学それぞれの立場から、その性質や成り立ちをクロストークの形で分かりやすく紹介した。



クロストーク

・記念講演会「龍一天地を結ぶもの」

9月26日（41名）会場：当館講堂

小南一郎（当館名誉館長）

中国由来の瑞獣の代表格である龍について、古代の様々な文物や文献などを通じ、その性格と特質に迫る。



特別講演会

・ワークショップ「鋳物体験—古印をつくろう」 10月3日（39名） 10月4日（39名）

新郷英弘氏・樋口陽介氏・堀内快氏（芦屋釜の里）会場：当館講堂

本展覧会の重要な地位を占める殷周青銅器に用いられた鋳造の技術を体験学習できる場として、低温で溶ける錫を用いた古印づくりのワークショップを開催した。



ワークショップ

開館 60 周年記念名品展Ⅱ 泉屋博古 #住友コレクションの原点

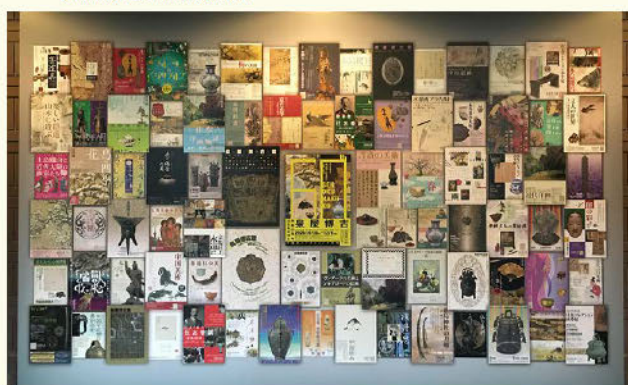
会期：10月30日 - 12月6日

開館 60 周年の記念名品展。青銅器をはじめ、日本絵画、中国絵画、書、茶道具など当館の顔が一堂に会するベスト・セレクション展を開催し、当館の辿ってきた道を振り返った。また同時に竣工 50 年を迎えた青銅器館の建築をテーマにした特集展示も行った。

(主催：公益財団法人泉屋博古館、京都新聞)



「泉屋博古」扁額展示



展示室入り口歴代展覧会ポスターコラージュ



展示風景

開館 60 年の節目を迎えるにあたって、「泉屋博古館」という館名を再確認する展示コーナーを設けた。併せて館の 60 年の歩みを振り返るポスター展示と、竣工 50 周年を迎えた青銅器館の建築に焦点を当てた展示も行った。



「泉屋博古」解説



青銅器館建築解説



青銅器館建築関連展示（ロビー）

近隣美術館との連携：相互割引（野村美術館×泉屋博古館）「京都東山 美術館さんぽ」

野村美術館と「瑞獣伝来」展および「泉屋博古」展期間中に相互広報及び相互割引を実施した。

関連催事

・スライドトーク

展示作品をジャンル毎にスライドトークで毎週解説を実施した（会場：当館講堂）。

- 前期展示のハイライト編 11 月 4 日（39 名）
- 日本書画と茶道具編 11 月 11 日（19 名）
- 中国文房具と中国書画編 11 月 18 日（46 名）
- 青銅器と鏡鑑編 11 月 19 日（25 名）
- 仏教美術と青銅器館編 11 月 25 日（26 名）
- 後期展示のハイライト 12 月 2 日（40 名）



スライドトーク

2020 年度の主な調査研究事業

1. 泉屋博古館紀要の執筆・編集

泉屋博古館紀要第 36 巻の執筆と編集作業を行った（2020 年 12 月刊行）。

本号は、小南一郎（当館名誉館長）論文、佐々木研太氏（東京学芸大学）論文、後藤隆基氏（早稲田大学演劇博物館）論文、富田博之氏（泉佐野市教育委員会）論文、椎野晃史（当館学芸員）論文の合計 5 編を掲載。



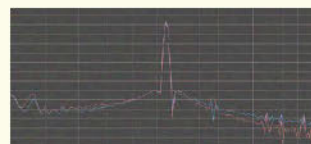
泉屋博古館紀要第 36 巻

2. 館藏品研究

・「編鐘の復元研究」（廣川）

館蔵編鐘の復元鑄造を実施し、熱処理の有無による音高、音響の違いを確認した。実際に復元品をたたいた音を録音し、音高・音響解析ソフトを用いて検討した結果、熱処理前に比べ熱処理後は雑音の残響が減少することが判明した。

（芦屋釜の里研究員等との共同調査、日本学術振興会科学研究費補助金 JP17K03230 による研究）



・「木島櫻谷の調査研究」（実方）

櫻谷文庫所蔵資料のうち、今年度は引き続き櫻谷宛書簡整理を同文庫と共同で進めた。追加で発見された資料群もあり、デジタル化を進めるとともに、データベース化に着手した。



・「近代染織史の基礎資料研究」（森下）

館蔵の染織作品を基本資料として、近代の染織品における様式変遷ならびに技法を比較する。東京文化財研究所無形文化遺産部研究員と共同研究を行う。本年は、伝統技術の伝承をテーマに、重要無形文化財「伊勢型紙」の保持団体である伊勢型紙技術保存会へのインタビューを実施。2021 年「ゆかた 浴衣 YUKATA」展にて、インタビュー映像の放映ならびに対談イベントを実施予定。

・「館蔵文房具及び煎茶道具の基礎資料研究」(竹嶋)

前年に続き、館蔵の中国文房具に関して、図様や技法等の基礎的な研究を行った。さらに過去の煎茶会記録に登場する館蔵品を洗い出し、コレクション形成における近代煎茶文化が果たした意義を検討、それもまとめた論考を現在執筆中である。

・「殷周金文鑄造技法研究」(山本)

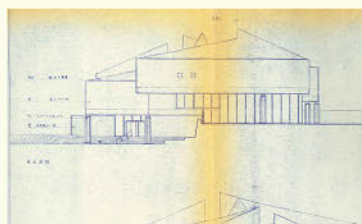
前年度の成果に続き、今年度は銘文の施された器そのものの鑄型製作法に再検討を加え、改めて復元鑄造を行い、提唱した金文鑄造法の仮説の補強を行った。

(台湾中央研究院史語所研究者、芦屋釜の里研究者との共同研究)



・「青銅器館建築に関する基礎資料整理」(竹嶋)

竣工 50 年を迎えた青銅器館に関して、設計図面等の資料のデジタル化を開始した。1970 年大阪万博前後のモダニズム建築の特色をよく示す事例として、青銅器館を検討し、その成果を「泉屋博古」展で展示した。



・「館蔵日本画及び洋画の基礎研究」(椎野)

館蔵の日本画及び洋画に関して、同時代資料の収集を行い、展覧会出品歴等の基礎情報を確認した。特に明治時代に描かれた肖像画を取り上げ、個々の作品研究に加え、作者の史的位置を検討した。

その成果を「泉屋の肖像－中丸精十郎の作品について」の題で『泉屋博古館紀要』第 36 巻に執筆した。



3. 住友関連研究

・「美術品収集経緯研究」(学芸員全員)

継続実施している明治大正期住友家美術品収集経緯の研究について、昭和期の購入資料の検討とデータベース化を進めた。

4. その他の研究

・「中国初期王朝時代の政治と文化」(小南)

中国初期王朝時代(二里頭文化から秦漢帝國の成立までの時期)の制度や文化について、主として出土文物を資料にして、その特質を検討する。その成果の一部を論文にまとめ、「祖霊と穀霊 — 中国墓葬中の倉庫模型を中心にして(上)」として『泉屋博古館紀要』第36巻に載せた。また国際日本文化研究センターの研究会に参加し「殷墟卜辞は本当に占卜の記録か」と題する報告を行なった。



・「中国近世の文芸と民衆信仰」(小南)

中国近世の民衆文芸を通して、庶民信仰と生活倫理(孝の概念など)の特質を探究する。その成果の一部を「目連戯 — その特異性」にまとめ、科研費報告論文として出版した。



・「春秋戦国時代青銅器の生産と流通に関する複合的研究」(山本)

春秋戦国時代の各地域に見られる青銅彝器の特徴を、紋様系統や鑄造技術上の痕跡などの検討を通じて明らかとし、当時における青銅器の生産・流通の実態解明を目的とする。(日本学術振興会科学研究費補助金 19K13411 による研究)



・「日本中近世金工品の基礎的研究」(山本)

相国寺伝来の三具足、および利休初伝の胡銅花入の実見調査を行い、それらの生産地および鑄造技術上の特質を明らかにするうえでの基礎的な知見を得た。(茶道資料館・芦屋釜の里との共同調査)



2020 年度の美術品修復

1. 漆工

・《龍図堆黄盆》および《双龍図堆黄長方盆》

埃や後補の漆を除去。その後、亀裂含浸、剥離塗膜の押さえ、刻苧漆充填、錆付へと作業を進めている。2019 年より 3 カ年事業の 2 年目。

円盆 977 千円、長方盆 686 千円（総額 3,102 千円）。



《龍図堆黄盆》（修復前）



《龍図堆黄盆》（修復中）

2. 絵画

・モーリス・ド・ヴラマンク《雪後》額を新調し、低反射アクリルや裏板を新たに取付けた。（434 千円）

モーリス・ド・
ヴラマンク《雪後》額
（修復後）



・橋本雅邦《深山猛虎図》修理前状態調査、ならびに赤外線写真の撮影を実施。 本年より 2 カ年事業。327 千円（総額 3,300 千円）。

3. 茶道具

・《小井戸茶碗 銘六地藏》仕覆

現存している仕覆に負担をかけず立体保存するために、茶碗と同様の寸法、形の中込を制作し、仕覆を立体的に保存、またそのまま展示できるようにした（350 千円）。



《小井戸茶碗 銘六地藏》仕覆（修復前）



《小井戸茶碗 銘六地藏》仕覆（修復後）

・茶の湯釜、風炉

福岡県・芦屋釜の里にて修復を行う（共箱の修理を含む）2021 年まで継続。

1 例として、《芦屋円窓松竹梅図霰真形釜》は、替え底の継ぎ目の金漆が枯れていたため、金漆を剥がし補強を行った。



《芦屋円窓松竹梅図霰真形釜》（修復前）



《芦屋円窓松竹梅図霰真形釜》（修復中）



《芦屋円窓松竹梅図霰真形釜》（修復後）

2020 年度の収蔵品貸出

饗養文鼎 饗養文罍 饗養文卣 鷗鵬尊 鈎連雷文甗 (いずれも京都本館)

「アジアのイメージ展－日本美術の「東洋憧憬」」(東京都庭園美術館：2019 年 10 月 12 日～2020 年 1 月 13 日)

陸師道《斎居坐雨図扇面》 文徵明《茶具巻》 唐寅《秋声図巻》 徐渭《花卉雜画巻》
(いずれも京都本館)

「生誕 550 年記念 文徵明とその時代」(台東区立書道博物館：2020 年 1 月 4 日～2020 年 3 月 1 日)

* 2 月 27 日新型コロナウイルス感染拡大防止のため予定より 3 日間短縮して終了)

徐渭《花卉雜画巻》 王楚珍《草花群蝶図》 十時梅屋《十便十宜帖》 浦上春琴《蔬果虫魚帖》
(いずれも京都本館)

「水のめぐみ 大地のみのり－野菜、果物、魚介の美術」(大和文華館：2020 年 2 月 21 日～2020 年 4 月 5 日 * 3 月 1 日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため予定より約 1 ヶ月短縮して終了)

毘沙門天立像 (京都本館)

「毘沙門天－北方鎮護のカミ－」(奈良国立博物館：2020 年 2 月 4 日～2020 年 3 月 22 日)

* 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 2 月 27 日以降臨時休館、閉幕)

西村彦兵衛(象彦)《高砂時絵文台》 初代三浦竹泉《露翠瓷觚式花瓶》(いずれも東京分館)

「京都の美術 250 年の夢 第 1 部」(京都市京セラ美術館：2020 年 4 月 18 日～2020 年 6 月 14 日)

* 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発出にともない開催中止)

《藤棚時絵十種香箱》《源氏車夕顔時絵太鼓胴 銘玉の尾》(いずれも東京分館)

「国立能楽堂企画展 日本人と自然－能楽と日本美術－」(国立能楽堂 資料展示室：2020 年 6 月 5 日～6 月 28 日 * 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発出にともない会期変更)

出石焼 菊透彫花瓶 (京都本館)

「出石焼 但馬の小京都で生まれた珠玉のやきもの」(兵庫陶芸美術館：2020 年 9 月 12 日～2020 年 11 月 29 日)

熊谷守一《鴨跖草》《野草》(いずれも東京分館)

「熊谷守一 わたしはわたし」(天童市美術館：2020 年 9 月 26 日～10 月 25 日、奥田元宋・小由女美術館：2020 年 11 月 3 日～12 月 20 日)

詹景鳳《山水図》 漸江《江山無尽図巻》 漸江《竹岸蘆浦図巻》 石濤《黄山図巻》 石濤《黄山八勝図冊》(いずれも京都本館)

「墨の天地－中国 安徽地方の美術」(大和文華館：2020 年 10 月 10 日～2020 年 11 月 15 日)

鹿子木孟郎《加茂の競馬》(寄託品) 戸島光孚《枝垂桜時絵手箱》(いずれも東京分館)

「京都の美術 250 年の夢 第 1 部～第 3 部 総集編」(京都市京セラ美術館：2020 年 10 月 10 日～2020 年 12 月 6 日)

その他、大阪市立美術館、九州国立博物館、アーティゾン美術館への貸出予定は展覧会延期のため次年度に繰越しとなった。

泉屋博古館分館 休館中の活動

改修工事にともなう休館期間中、分館所蔵の茶の湯釜および風炉作品計 61 件を福岡県の芦屋釜の里に寄託している。両館で締結した「共同研究及び公開に関する協定書」に基づき、寄託期間中は調査研究に併せて修理・メンテナンスを行うほか、芦屋釜の里内の展示施設にて公開した。2020 年度の活動の状況は下記の通りである。

《釜本体や作品の保存箱の状態確認、修復》

- 釜本体 修復着手件数 27 件
- 保存箱および箱紐の修理・新調 42 件

《芦屋釜の里 展覧会の開催》

開園 25 周年記念特別展 「茶の湯釜の美 住友コレクションの名品と復興芦屋釜」

春季展（前期）4 月 14 日～5 月 17 日（後期）6 月 2 日～21 日

* 新型コロナウイルス感染拡大防止のため前後期とも開催中止

秋季展（前期）9 月 15 日～10 月 25 日（後期）10 月 27 日～12 月 6 日

また、展覧会開催に併せて館蔵品図録『茶の湯釜の美』（初版：平成 26 年）改訂版を発行した（800 部）。



芦屋釜の里での展示風景

鑄造ワークショップ「古印をつくろう」は、芦屋釜の里協力のもと、低温で融ける錫を用いて鑄造技法を体験できるワークショップである。京都本館では 2016 年より毎年開催されており、東京分館でも 2018 年「神々のやどる器」展および 2019 年「金文」展の展覧会関連イベントとして開催し、好評を博した。

2020 年度は改修工事による休館期間中ではあったが、（公財）港区スポーツふれあい文化健康財団（通称：Kiss ポート財団）との共催のもと、港区高輪区民センター第 1・第 2 創作室において、「鑄造ワークショップ 古印づくり」を 12 月 20 日（日）・21 日（月）の 2 日間、各午前・午後の計 4 回開催した（各回定員 20 名すべて満席）。

Kiss ポート財団との共催により広く区民に告知することができ、中学生以下の参加者も多く、アンケートには「感染予防対策がとられ安心して参加できた」「再度挑戦したい」「美術館が再開されたら足を運びたい」などの感想が寄せられた。今後も定期的に開催していきたい。



ワークショップの募集告知が掲載された Kiss ポート誌 10 月号「ふれあいコラム」にて、芦屋釜の里の新郷学芸員・鑄物師養成員の樋口氏のインタビューも紹介された。（バックナンバー URL: <https://www.kissport.or.jp/hureai/2010/>）



今回は感染予防として、検温・手指消毒・換気・マスク着用・問診票記入・終了後の備品消毒を徹底。軍手やゴーグルなど着用する消耗品は使い切りとした。



前半は泉屋博古館と芦屋釜の里についてのミニレクチャー。



粘土板に好きな文字やデザインを彫る。



粘土板に鑄型にセットし、融けた錫を流し込む。



やすりで印面を整えて完成。

2020 年度外部機関協力・広報

1. 職員による外部講演

- ・山本亮「伝世と倣古—先秦時代青銅彝器の時間性をめぐる試論—」
1月24日 京都大学人文科学研究所「3世紀の東アジア」研究班 発表
- ・山本亮「漢字はどのように青銅器に鑄込まれたか—金文の制作技法—」
9月28日 東京学芸大学公開講座「中国古代の青銅器銘文（金文）からみた漢字の世界」講演
- ・野地耕一郎「東山魁夷をもう一度」
10月24日 宮城県美術館特別展「東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展」講演
- ・山本亮「殷周金文辨偽新考」
12月14日 2020年度中国出土資料学会大会発表

2. 外部機関への協力

- ・大学への出講
野地耕一郎「博物館実習（美術史）」成城大学 2020年4月～2021年3月

3. 近隣美術館・施設との連携

- ・黒川古文化研究所との収蔵品相互寄託（京都）
- ・野村美術館相互割引企画「京都東山 美術館さんぽ」（京都）
- ・港区スポーツふれあい文化健康財団（Kiss ポート財団）共催鑄造ワークショップ「古印づくり」（東京）

4. 新聞、テレビ等を通じての広報活動

「モネからはじまる住友洋画物語」展（主催京都新聞、日本経済新聞社）

- 1月4日 京都新聞朝刊「2020年の主催事業特集」
- 2月1日 日本経済新聞タブロイド「REVIVE」2月号
- 2月1日 日本経済新聞「神戸・姫路日経懇話会報」2月号
- 2月27日 京都新聞朝刊社告
- 2月29日 奈良新聞
- 3月1日 京都民報（全面カラー）
- 3月1日 MK新聞
- 3月1日 美術新聞社「美術新聞」（全面カラー）
- 3月9日 日本経済新聞朝刊社告
- 3月10日 京都新聞夕刊社告
- 3月10日 朝日新聞表組記事
- 3月11日 美術年鑑社「新美術新聞」
- 3月13日 京都新聞朝刊特集紙（全10段カラー）
- 3月13日 京都新聞タブロイド「T&T」
- 3月14日 京都新聞朝刊開幕記事
- 3月18日 日本経済新聞朝刊アートライフ
- 3月23日 J:COM「ジモト応援！つながるNEWS」（スマホアプリ「ど・ろ〜かる」配信）
- 4月3日 京都新聞夕刊くらしインフォ
- 4月7日 朝日新聞表組記事

- 4月21日 朝日新聞「美の履歴書」(紙面約1/2、カラー)
- 6月7日 京都新聞朝刊市民版 展覧会再開記事(カラー)
- 6月23日 朝日新聞夕刊表組記事
- 6月24日 毎日新聞夕刊芸術欄コラム(半3段カラー)
- 6月25日 京都新聞朝刊広告(全5段カラー)
- 6月26日 京都新聞夕刊くらしインフォ
- 7月4日 神戸新聞文化面(半4段カラー)
- 7月7日 朝日新聞夕刊表組記事
- 8月10日 日本経済新聞朝刊「日経アートアカデミア」広告
共同通信配信先掲載分
3月3日伊勢新聞、2月29日愛媛新聞、3月3日中国新聞、3月7日岐阜新聞、
3月28日熊本日日新聞ほか
- 「瑞獣伝来—空想動物でめぐる東アジア三千年の旅」展(主催京都新聞、毎日新聞社)
- 8月12日 毎日新聞朝刊特集紙(全6段カラー)
- 8月15日 毎日新聞朝刊ふれ愛インフォメーション(カラー)
- 8月19日 京都新聞朝刊社告
- 8月24日 京都新聞「きらっと京滋」9月号
- 8月29日 滋賀リビング新聞社「リビング滋賀」
- 9月1日 陶業時報
- 9月1日 MK新聞
- 9月4日 毎日新聞朝刊社告
- 9月5日 京都新聞夕刊社告
- 9月5日 毎日新聞朝刊ふれ愛インフォメーション(モノクロ)
- 9月8日 朝日新聞夕刊表組記事
- 9月10日 京都新聞朝刊特集紙(全10段カラー)
- 9月11日 美術年鑑社「新美術新聞」
- 9月11日 京都新聞タブロイド「Iru・miru」
- 9月12日 京都新聞朝刊開幕記事
- 9月12日 毎日新聞朝刊開幕記事
- 9月12日 毎日新聞朝刊広告(半5段モノクロ)
- 9月16日 京都新聞朝刊広告「①龍編」(全5段カラー)
- 9月16日 J:COM「ジモト応援!つながるNEWS」(スマホアプリ「ど・ろ〜かる」配信)
- 9月17日 毎日新聞夕刊広告(半5段モノクロ)
- 9月18日 中外日報
- 9月19日 京都リビング新聞社「リビング京都」
- 9月19日~ YouTube 京都新聞チャンネル「美術に棲む龍と虎」嵯峨嵐山文華館展覧会担当者と
オンライン対談
- 9月20日 美じょん新報
- 9月20日 KBS「京都新聞ニュース」
- 9月23日 毎日新聞夕刊芸術欄(カラー)
- 9月26日 毎日新聞朝刊作品紹介連載①「鳳凰石竹図」(山本学芸員執筆) ※大阪版は9/17
- 9月27日 NHK E テレ「日曜美術館アートシーン」
- 9月30日 京都新聞朝刊広告「②鳳凰編」(全5段カラー)
- 10月2日 毎日新聞朝刊作品紹介連載②「虎占」(山本学芸員執筆) ※大阪版は9/28

- 10月3日 毎日新聞朝刊ふれ愛インフォメーション
- 10月9日 京都新聞朝刊広告「③虎編」(全5段カラー)
- 10月13日 朝日新聞夕刊「彩る ART」
- 10月17日 毎日新聞朝刊作品紹介連載③「呂洞賓図」(山本学芸員執筆、カラー) ※大阪版は 10/5

「泉屋博古 #住友コレクションの原点」展 (主催京都新聞)

- 10月1日 京都新聞朝刊社告
- 10月15日 美術新聞社「美術新聞」(全面カラー)
- 10月23日 京都新聞夕刊社告
- 10月23日 中外日報
- 10月27日 京都新聞朝刊特集紙(全10段カラー)
- 10月27日 朝日新聞夕刊表組記事
- 10月30日 京都新聞タブロイド「Iru・miru」
- 11月1日 京都新聞「きらっと京滋」11月号
- 11月2日 京都新聞朝刊開幕記事
- 11月8日 KBS「京都新聞ニュース」
- 11月13日 奈良新聞「私の美術ノート」(全2段モノクロ)
- 11月16日 産経新聞朝刊「遊ぼう West」
- 11月17日 京都新聞広告(全5段カラー)

「ゆかた 浴衣 YUKATA すずしさをデザイン、いまむかし」展 (主催京都新聞、朝日新聞社)

朝日友の会「アサヒメイト」6月号(7月号で延期告知掲載) ほか

京都その他

- 3月 「虎占」チェルヌスキ美術館内スマートフォンアプリ「東洋美術ガイド」
- 2月3日 「二条城行幸図屏風」関西テレビ「新説! 所 JAPAN」
- 2月23日 「二条城行幸図屏風」NHK BSプレミアム「天皇のディナー」(7月22日再放送)
- 3月10日 「虎占」など青銅器・青銅鏡4点 テレビ東京系「開運! なんでも鑑定団」
- 4月18日 「二条城行幸図屏風」テレビ東京系「新 美の巨人たち」
- 6月11日 館紹介 京都新聞朝刊「ミュージアムのちから」(10段2/3カラー)
- 6月28日 「佐竹本三十六歌仙絵切 源信明」日本経済新聞「日経 The Style」
- 8月7日 「二条城行幸図屏風」NHK BSプレミアム「ニッポン不滅の名城 二条城」
(8月30日再放送、8月22日NHK BS4K)
- 10月14日 「二条城行幸図屏風」BS朝日「京都ぶらり歴史探訪」#93 天皇の名宝
- 12月8日 「徐九方筆 水月観音像」「阿弥陀三尊像」テレビ東京「開運! なんでも鑑定団」
- 12月12日 「二条城行幸図屏風」TBSテレビ「世界ふしぎ発見!」日本の城篇
- 12月 「二条城行幸図屏風」二条城まつり2020来城者向けARガイド

5. SNSを活用した広報活動

- 京都 フェイスブック投稿(展覧会・作品・イベント紹介等) 106回
 ツイッター(展覧会・作品紹介、館近況報告等) 858回
 実方葉子「アートの見方」館蔵品紹介(京都新聞・電通 Web メディア「THE KYOTO」
 内リレー連載) 月1回(6月開始、計7回)
- 東京 フェイスブック投稿(作品紹介等) 42回
 ツイッター(作品紹介等) 85回

当館で活動するボランティア

《青銅器解説ボランティア》

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」に所属するメンバーで構成され、当館の初回研修およびフォローアップ研修を受けて活動している。登録者数 28 名（2020 年末現在）。

「虹の会」は京都市内博物館施設連絡協議会（京博連）および京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を受講・修了した市民の方々の所属する団体で、当館では平成 16 年よりそのボランティア育成事業に協力するとともに、当館所蔵美術品のより一層の普及のため、来館者への青銅器・鏡鑑の解説を依頼している。数年ごとに新規募集し、常に 30 名前後の登録者を得て普及活動を継続している。

導入時より、活動開始前の初回研修は 10 ～ 12 回、以降活動中のフォローアップ研修は年 1 ～ 2 回を定例とする。いずれも青銅器の専門学芸員が指導する本格的な研修内容により、ボランティアが積極的に参加してレベルアップに努めている。令和 2 年は新型コロナウイルス感染症対策のため解説ボランティアの活動は休止となった。



なおボランティア対象の研修会については、3 月 3 日開催予定の研修を中止したが、8 月 19 日（座学）、9 月 11 日（展示室にて解説）、11 月 27 日（講師とのディスカッション）の 3 回にわたり、山本亮学芸員を講師として実施した。



《監視ボランティア》

平成 29 年より来館者数の増加にともない、企画・特別展示室内の監視業務をボランティアに依頼している。

「虹の会」および「京都市文化ボランティア」（京都市文化市民局文化芸術都市推進室）と連携して展覧会会期毎に活動者を募集し、1 会期中およそ 40 名が活動を行っている。

2020 年度施設工事

・本館2号館UVカットフィルム貼付（京都）

展示室内への紫外線侵入防止及び防犯のため、2号館ロビー硝子壁にUVカットフィルムを貼り付けた（864千円）。

・サーマルカメラ設置（京都）

新型コロナウイルス感染症対策として、入館者の体温測定を容易に行うため、正面玄関にサーマルカメラを設置した（440千円）。

2020 年度評価委員会

当館では、当館が行う展示、研究、保存などの事業について、その実績・内容、今後の計画などに対し客観的な評価を得て活動水準の高度化を図るため、外部の有識者を中心とした評価委員会を定期的に開催している。2020年度は以下の委員会を開催した。

3月27日 住友会館（東京）、評価委員4名、学芸員4名が出席。

「収集（購入）活動について、その対象・ジャンルなどについて評価」。

* 12月は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催を中止した。

東京分館リニューアル工事

東京六本木の住友家旧麻布別邸跡地に建てられた泉屋博古館分館は、泉屋博古館京都本館の分館として2002年に開館いたしました。それから18年間に渡り、分館館蔵品をご紹介しますさまざまな展覧会を開催し、また京都本館館蔵の住友コレクションの名品を東京で展覧する特別展を企画してまいりました。この活動は、洋画や近代陶芸など、東京で企画された特別展の京都本館での展覧も含め、東西両館のシナジーを活かしたユニークな活動としてご来館の多くの皆様にお楽しみいただいております。

泉屋博古館分館は現在閉館し、2022年のリニューアルオープンに向けて、2020年4月1日より改修工事に入りました。着工から程なくして、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が発令され、工事への支障も懸念されましたが、設計事務所や施工業者など関係者各位のご尽力により、工事は十分な対策を講じながら順調に進み、現在計画通りの進捗となっております。

工事に先がけて分館収蔵庫内の収蔵品は館外の倉庫に保管し、一部の名品は京都本館での展示や他の美術館への貸出等により活用する計画でしたが、コロナ禍により京都本館でも展覧会が延期されるなど、全国的に美術館・博物館の展覧会が中止や規模縮小を余儀なくされる状態が続いております。そのため外部での活用は当初の計画通りの進捗が困難な状態となりましたが、分館では工事期間中も、SNSを利用して館蔵品紹介などの情報発信を続けており、当館学芸員による他美術館での講演会や、コレクション普及のためのワークショップ開催など、館外での文化活動にも注力しております。

分館所在地が江戸時代のお屋敷町であったことから、新設展示室等の基礎工事にあたっての掘削作業の際に地下から陶片などの埋蔵物が発掘されました。それらの埋蔵物は東京都より文化財として認定されましたので、リニューアルオープン後はこれらを借り受け、地域の歴史資料としてご来館の皆様にご紹介できますよう活用してまいります。



泉屋博古館分館から、《泉屋博古館東京》へ

リニューアルを機に、泉屋博古館分館は「泉屋博古館東京」に館名を変更いたします。公益財団法人泉屋博古館では、今後とも京都、東京の両国際都市に、泉屋博古館本館と泉屋博古館東京の二つの美術館を持つ特性を発揮し、両館で所蔵する住友コレクションの魅力をさらにお楽しみいただけるよう鋭意邁進してまいります。

2022年のリニューアルオープンにあたり、展示スペースの拡大とともに、カフェやミュージアムショップ、講堂などを新設し、ゆとりある鑑賞空間にて、より満足度の高い時間をお過ごしいただける美術館として再出発いたします。六本木一丁目のビジネスエリアのなかで、豊かな緑に囲まれたやすらぎの場として、今後も多くの皆様に親しんでいただけるよう活動してまいりますので、引き続きあたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



展示室



カフェおよびテラス



講堂

泉屋博古館設立の目的

当館は、住友家の収集にかかる古代青銅器を中心とする国宝、重要文化財等の美術工芸品および当館が取得した文化財の保存および公開、並びにこれらに関する調査研究を行い、学術研究の発展を図り、もって我が国の文化の向上と文化財の保護に寄与することを目的としております。

泉屋博古館の事業

当館は、上記目的を達成するため、次の事業を行います。

- (1) 美術工芸品の収集、保存および公開
- (2) 美術工芸品に関する調査研究、紀要、解説書、図録などの発行
- (3) 美術工芸品に関する研究会、講演会等の開催
- (4) 美術館の設置、運営
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

賛 助 会 員 2020 年 12 月 31 日現在

特別法人会員

住友化学株式会社	住友重機械工業株式会社
株式会社三井住友銀行	日本製鉄株式会社
住友金属鉱山株式会社	住友商事株式会社
三井住友信託銀行株式会社	住友生命保険相互会社
株式会社住友倉庫	住友電気工業株式会社
三井住友海上火災保険株式会社	日本板硝子株式会社
日本電気株式会社	住友不動産株式会社
住友大阪セメント株式会社	三井住友建設株式会社
住友ベークライト株式会社	住友林業株式会社
住友ゴム工業株式会社	大日本住友製薬株式会社

法人会員 (50 音順)

株式会社関西 C・I・C 研究所	株式会社薬研社
ワケンホールディングス株式会社	

個人会員 (敬称略、50 音順)

足立康庸	熊澤保夫	古賀邦正	谷水雄三	藤見知愛子
松波弘之	武藤治太	村瀬 寛	村瀬町子	森 重文
山田康之				

役員・評議員

2020年12月31日現在

理事長	奥 正 之	三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
常務理事	屋 代 榮	住友成泉社長
理 事	遠 藤 信 博	日本電気会長
	岡 村 秀 典	京都大学教授
	小野寺 研一	住友不動産会長
	熊 倉 功 夫	MIHO MUSEUM 館長
	家 守 伸 正	住友金属鉱山相談役
	酒 井 忠 康	世田谷美術館長
	佐々木 丞平	京都国立博物館長
	佐 藤 義 雄	住友生命保険会長
	住友 吉左衛門	住友財団理事長
	常 陰 均	三井住友信託銀行会長
	十 倉 雅 和	住友化学会長
	中 村 邦 晴	住友商事会長
	西 上 実	京都国立博物館名誉館員
	廣 川 守	泉屋博古館長
	松 本 正 義	住友電気工業会長
監 事	磯野 與志嗣	税理士
	秦 喜 秋	三井住友海上火災保険シニアアドバイザー
	中 村 吉 伸	住友重機械工業相談役
評 議 員	新 井 英 雄	三井住友建設社長
	池 田 育 嗣	住友ゴム工業会長
	小 野 孝 則	住友倉庫社長
	下 谷 政 弘	住友史料館長
	住 友 信 夫	
	関 根 福 一	住友大阪セメント社長
	多 田 正 世	大日本住友製薬会長
	出 川 哲 朗	大阪市立東洋陶磁美術館長
	友 野 宏	日本製鉄社友
	林 茂	住友ベークライト会長
	馬 淵 明 子	国立西洋美術館長
	森 重 樹	日本板硝子社長
	矢 野 龍	住友林業最高顧問

法人概要

貸借対照表

2020年12月31日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	220,202,930	80,041,377	140,161,553
棚卸資産	6,920,910	7,346,880	-425,970
仮払金	0	150,000	-150,000
前払金	2,089,733	26,614	2,063,119
前払費用	1,382,328	1,382,328	0
立替金	324,702	62,329	262,373
未収金	2,261,098	377,798	1,883,300
流動資産合計	233,181,701	89,387,326	143,794,375
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
美術品	6,416,102,120	6,416,102,120	0
土地	2,882,732,000	2,882,732,000	0
投資有価証券	2,946,392,700	3,250,697,028	-304,304,328
定期預金	0	0	0
普通預金	0	50,000,000	-50,000,000
基本財産合計	12,245,226,820	12,599,531,148	-354,304,328
(2) 特定資産			
営繕積立資産	7,513,199	7,513,199	0
基本財産購入積立資産	14,773,807	14,773,807	0
保存公開事業積立資産	3,002,700	3,002,700	0
調査研究事業積立資産	20,431,000	20,431,000	0
株式	155,731,500	106,455,000	49,276,500
株式取得資金	73,221,817	149,293,966	-76,072,149
建物	563,879,141	597,819,196	-33,940,055
構築物等	2,905,215	4,518,954	-1,613,739
特定資産合計	841,458,379	903,807,822	-62,349,443
(3) その他固定資産			
建物	87,743,023	93,437,731	-5,694,708
その他	18,481,476	24,858,653	-6,377,177
投資有価証券	0	1,110,152	-1,110,152
長期前払費用	746,314	1,584,970	-838,656
建設仮勘定	554,496,505	41,893,000	512,603,505
その他固定資産合計	661,467,318	162,884,506	498,582,812
固定資産合計	13,748,152,517	13,666,223,476	81,929,041
資産合計	13,981,334,218	13,755,610,802	225,723,416
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	69,512,707	16,143,237	53,369,470
預り金	1,489,505	3,813,148	-2,323,643
流動負債合計	71,002,212	19,956,385	51,045,827
2. 固定負債			
その他固定負債	24,553,136	24,310,036	243,100
固定負債合計	24,553,136	24,310,036	243,100
負債合計	95,555,348	44,266,421	51,288,927
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本財産 美術品	6,415,508,120	6,415,508,120	0
基本財産 土地	2,882,732,000	2,882,732,000	0
特定資産 建物	563,879,141	597,819,196	-33,940,055
特定資産 構築物等	2,905,215	4,518,954	-1,613,739
寄付金	0	569,800	-569,800
指定正味財産合計	9,865,024,476	9,901,148,070	-36,123,594
(うち基本財産への充当額)	(9,298,240,120)	(9,298,240,120)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(566,784,356)	(602,338,150)	(-35,553,794)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	4,020,754,394	3,810,196,311	210,558,083
(うち基本財産への充当額)	(2,946,986,700)	(3,301,291,028)	(-354,304,328)
(うち特定資産への充当額)	(274,674,023)	(301,469,672)	(-26,795,649)
正味財産合計	13,885,778,870	13,711,344,381	174,434,489
負債及び正味財産合計	13,981,334,218	13,755,610,802	225,723,416

法人概要

正味財産増減計算書

2020年1月1日から2020年12月31日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	66,916,236	66,417,102	499,134
特定資産運用益	7,044,598	4,725,000	2,319,598
入場料	7,562,318	23,668,113	-16,105,795
事業収益	7,207,983	16,274,622	-9,066,639
受取補助金等	2,621,564	90,954,554	-88,332,990
受取寄付金	120,810,000	133,740,000	-12,930,000
補助金等 寄付金 指定正味財産からの振替額	36,123,594	36,336,427	-212,833
雑収益	2,692,726	1,817,582	875,144
経常収益計	250,979,019	373,933,400	-122,954,381
(2) 経常費用			
事業費			
展覧会費	23,403,363	106,869,016	-83,465,653
美術品修繕費	3,204,181	1,661,860	1,542,321
調査研究費	5,018,726	6,338,967	-1,320,241
広告宣伝費	2,873,123	17,176,355	-14,303,232
給与費	69,168,034	69,387,138	-219,104
雑給	2,683,593	5,030,460	-2,346,867
旅費交通費	3,623,283	6,711,044	-3,087,761
通信運搬費	810,353	1,284,991	-474,638
光熱水道費	5,798,292	8,625,600	-2,827,308
消耗品費	3,204,187	5,699,981	-2,495,794
保守費	13,810,294	17,186,357	-3,376,063
賃借料	18,313,407	356,030	17,957,377
分館増改築関連費用	20,454,180	9,289,076	11,165,104
支払寄付金	0	11,000,000	-11,000,000
雑費	1,058,044	1,440,327	-382,283
特定資産減価償却費	34,311,450	35,063,961	-752,511
その他固定資産減価償却費	10,904,371	10,527,546	376,825
事業費計	218,638,881	313,648,709	-95,009,828
管理費			
給与費	34,916,161	35,115,043	-198,882
旅費交通費	1,144,190	1,734,582	-590,392
通信運搬費	1,624,708	1,573,582	51,126
光熱水道費	2,907,854	4,325,753	-1,417,899
消耗品費	1,433,505	1,003,986	429,519
保守費	6,576,911	7,590,628	-1,013,717
賃借料	709,376	1,210,369	-500,993
委託費	3,347,790	3,567,732	-219,942
分館増改築関連費用	1,884,182	1,010,056	874,126
雑費	1,700,247	2,636,366	-936,119
特定資産減価償却費	1,242,344	1,272,466	-30,122
その他固定資産減価償却費	798,935	781,714	17,221
管理費計	58,286,203	61,822,277	-3,536,074
経常費用計	276,925,084	375,470,986	-98,545,902
評価損益等調整前当期経常増減額	-25,946,065	-1,537,586	-24,408,479
基本財産評価損益等	266,459,520	-4,366,142	270,825,662
特定資産評価損益等	-26,795,649	5,748,966	-32,544,615
投資有価証券評価損益等	0	-10,858	10,858
評価損益等計	239,663,871	1,371,966	238,291,905
当期経常増減額	213,717,806	-165,620	213,883,426
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
その他固定資産受贈益	0	3,795,001	-3,795,001
経常外収益計	0	3,795,001	-3,795,001
(2) 経常外費用			
その他固定資産除却損	3,159,723	0	3,159,723
経常外費用計	3,159,723	0	3,159,723
当期経常外増減額	-3,159,723	3,795,001	-6,954,724
当期一般正味財産増減額	210,558,083	3,629,381	206,928,702
一般正味財産期首残高	3,810,196,311	3,806,566,930	3,629,381
一般正味財産期末残高	4,020,754,394	3,810,196,311	210,558,083
II 指定正味財産増減の部			
固定資産受贈益	0	5,800,000	-5,800,000
受取寄付金	0	569,800	-569,800
一般正味財産への振替額	-36,123,594	-36,336,427	212,833
当期指定正味財産増減額	-36,123,594	-29,966,627	-6,156,967
指定正味財産期首残高	9,901,148,070	9,931,114,697	-29,966,627
指定正味財産期末残高	9,865,024,476	9,901,148,070	-36,123,594
III 正味財産期末残高	13,885,778,870	13,711,344,381	174,434,489

泉屋博古館蔵品紹介

第4回 日本書画

設立以来、中国美術の美術館といったイメージが強かった当館にとって、ひとつの転機となったのが平成6年（1994）、日本の美術工芸が住友家から多数寄贈されたことでしょう。時代、ジャンルともに幅広い寄贈品のなかでも、中世から近世にいたる日本の絵画書跡約320件は、ほとんどがその存在すら知られてきませんでした。以来、調査や修理を経て「初公開」を重ね、いまでは「日本絵画の宝庫」という新たな顔がコレクションに加えられました。

このジャンルは他と同様、ほとんどが15代当主住友春翠によって明治後半から大正期に収集されたものです。《寸松庵色紙》などのかな古筆や中近世の和歌書、《佐竹本三十六歌仙絵切 源信明》などのやまと絵、黙庵靈淵《布袋図》をはじめとする中世水墨画など、茶の湯の席にもふさわしい優品には国指定文化財もまわってみられます。

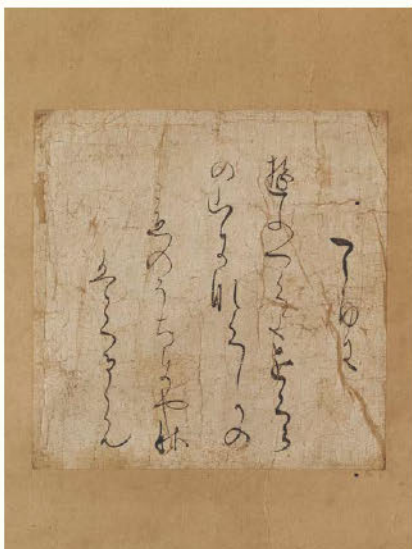
また江戸時代の文人書画も多く、初期の彭城百川から田能村竹田や頼山陽など幕末の文人たちまで、多彩な顔ぶれがならびます。山奥の四阿（あずまや）で高士らが清談する田能村竹田の《梅溪閑居図》などは、文人の理想世界を詩書画一致のなかに映し出すもので、煎茶を好んだ春翠自身の深い共感をうかがわせます。

さらに、江戸時代の花鳥画の大作も豊富で、ことに伊藤若冲や円山応挙など江戸後期に活況を呈した京都大坂画壇の画家が勢揃いし、華麗に筆を競います。それらは天王寺の茶白山本邸をはじめ各地に築かれた近代和風建築の書院を飾り客人をもてなしたり、また季節の情緒とともに春翠の束の間の休息を彩りました。

そのなかでわずかではありますが、江戸時代までさかのぼる住友家伝来品が含まれる点が、当館の中国美術コレクションにはない特徴のひとつです。《二条城行幸図屏風》や《日吉山王祭礼図屏風》ほか、幕府高官の銅吹所視察時の装飾として用いられた記録のあるもの、また住友家の人々が同時代の文化人と交流した証ともなる作例も見られ、大坂の商家の暮らしぶりをしのぶことができます。

これらを展示してお客様からよくお聞きするのは、表具を含めた姿の美しさです。品格と洗練を感じさせる表具は、住友家で新調されたものもあれば、それ以前の所有者から受け継いだものもあります。いずれにせよ、作品の姿を引き立てるそれらには、古書画への理解と敬愛の念が現れているようです。ご観覧の際は、図録ではあまり紹介されることのない表具にも、ぜひ注目してみてください。

（実方葉子）



寸松庵色紙 伝紀貫之 平安時代

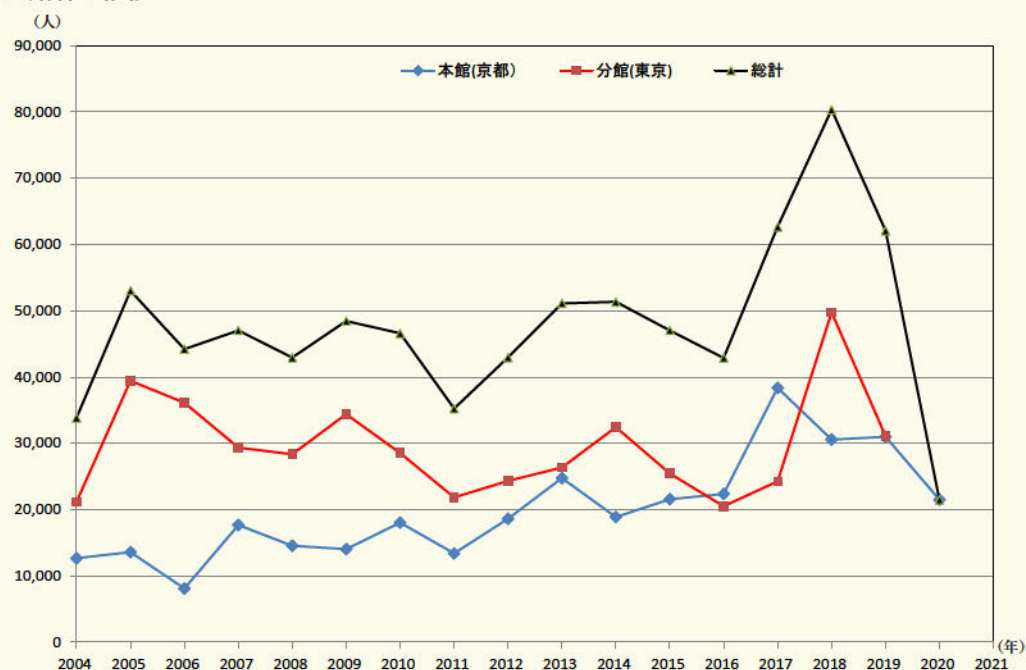


海棠目白図 伊藤若冲
江戸時代



重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵切 源信明 鎌倉時代

入館者の推移



2021 年展覧会予定

本館（京都）

特別展

鑄物・モダン ―花を彩る銅のうつわ―

3月13日－5月16日

特別展

ゆかた 浴衣 YUKATA すずしさのデザイン、いまむかし

6月5日－7月19日

木島櫻谷 四季の金屏風 と京都画壇

9月11日－10月24日

伝世の茶道具 ―珠玉の住友コレクション（仮）―

11月6日－12月12日

泉屋ビエンナーレ 2021 現代鑄金作家展（仮）

9月11日－12月12日

分館（東京）

改修工事のため 2022 年まで休館